

(15)

(6) - 33

別添 2-2

(社会医療法人が関係書類を毎会計年度終了後3月以内に届け出る場合)

令和 4年 6月 29日

茨城県知事 殿



茨城県牛久市柏田町1589番地3
社会医療法人 若竹会
理事長 竹島 徹



決 算 届

令和3年4月1日から令和4年3月31日までの決算を終了したので、医療法第52条第1項の規定により届出します。

記

救急医療等確保事業を行っている病院又は診療所		救急医療等確保事業の別
名 称	所 在 地	
つくばセントラル病院	茨城県牛久市柏田町1589番地3	救急医療

注1)「救急医療等確保事業を行っている病院又は診療所」欄には、医療法第42条の2第1項第5号の基準に適合する病院又は診療所(指定管理者として管理する病院又は診療所を含む。)を全て記載すること。

注2)「救急医療等確保事業の別」欄には、当該施設で行っている医療が、医療法第30条の4第2項第5号に掲げる医療(以下参照)のいずれに係るものであるかの別(当該施設で医療法第42条の2第1項第5号の基準を満たすものが複数ある場合は、その全て)を記載すること。

○救急医療(精神科救急医療の要件を満たす場合は、「精神科救急医療」と記載すること。)

○災害医療 ○へき地医療 ○周産期医療 ○小児救急医療

事 業 報 告 書
(自 令和3年4月1日 至 令和4年3月31日)

1 医療法人の概要

- (1) 名 称 社会医療法人 若竹会
- ① ☐ 財団 ☒ 社団 (☒ 出資持分なし ☐ 出資持分あり)
- ② ☒ 社会医療法人 ☐ 特別医療法人 ☐ 特定医療法人
- ☐ 出資額限度法人 ☐ その他
- ③ ☐ 基金制度採用 ☒ 基金制度不採用
- (2) 事務所の所在地 茨城県牛久市柏田町1589-3
- 注) 複数の事務所を有する場合は、主たる事務所と従たる事務所を記載すること。
- (3) 設立認可年月日 平成4年12月22日
- (4) 設立登記年月日 平成4年12月28日
- (5) 役員及び評議員

	氏 名	備 考
理 事 長	竹島 徹	当法人医師 理事長
副理事長	小倉 絹子	当法人医師 理事長娘
理 事	榎本 貴夫	当法人医師 セントラル腎クリニック龍ヶ崎管理者
同	金子 剛	当法人医師 つくばセントラル病院管理者 理事長娘婿
同	金子 洋子	当法人医師 理事長娘
同	深尾 立	当法人非常勤医師
同	佐藤 健	当法人医師 セントラル総合クリニック管理者
同	田中 千博	当法人医師 介護老人保健施設セントラル土浦管理者
同	武井 一夫	当法人医師 副院長
同	森本 健	当法人医師 介護老人保健施設セントラル大田管理者
同	柴田 恭宏	当法人事務部長
同	木樽 京子	当法人看護部長
同	佐藤 悠吉	当法人医師 都和病院管理者
監 事	空本 光弘	公認会計士 空本会計事務所
同	平野 茂	税理士 平野茂税理士事務所

- 注) 1. 社会医療法人、特別医療法人及び特定医療法人以外の医療法人は、記載しなくても差し支えないこと。
2. 理事の備考欄に、当該医療法人の開設する病院、診療所又は介護老人保健施設（医療法第42条の指定管理者として管理する病院等を含む。）の管理者であることを記載すること。（医療法第47条第1項参照）
3. 評議員の備考欄に、評議員の選任理由を記載すること。（医療法第49条の4参照）

[別 紙]

様式 1

2 事業の概要

(1) 本来業務（開設する病院、診療所又は介護老人保健施設（医療法第42条の指定管理者として管理する病院等を含む。）の業務）

種 類	施設の名称	開 設 場 所	許可病床数
病院	つくばセントラル病院	茨城県牛久市柏田町1589-3	一般病床 313床 療養病床 0床 [医療保険 313床] [介護保険 0床] 精神病床 0床 感染症病床 0床 結核病床 0床
診療所	セントラル腎クリニック龍ヶ崎	茨城県龍ヶ崎市馴馬町字山王台2668-1	病床 なし
介護老人保健施設	セントラルゆうあい	茨城県牛久市柏田町1590-3	入所定員 100名 通所定員 50名
介護老人保健施設	セントラルふれあい	茨城県牛久市柏田町1604-6	入所定員 29名 通所定員 20名
介護老人保健施設	セントラル大田	東京都大田区中央8-34-10	入所定員 120名 通所定員 40名
診療所	セントラル総合クリニック	茨城県牛久市上柏田4-58-1	病床 なし
介護老人保健施設	セントラル土浦	茨城県土浦市真鍋新町12-10	入所定員 100名 通所定員 20名
病院	都和病院	茨城県土浦市西並木町3690番地	療養病床 42床
介護医療院	土浦リハビリテーション病院	茨城県土浦市真鍋新町5058-1	入所定員 96名

注) 1. 地方自治法第244条の2第3項に規定する指定管理者として管理する施設については、その旨を施設の名称の下に【 】書で記載すること。

2. 療養病床に介護保険適用病床がある場合は、医療保険適用病床と介護保険適用病床のそれぞれについて内訳を【 】書で記載すること。

3. 介護老人保健施設の許可病床数の欄は、入所定員及び通所定員を記載すること。

(2) 附帯業務（医療法人が行う医療法第42条各号に掲げる業務）

種類又は事業名	実 施 場 所	備 考
グループホームたいせつの家	茨城県牛久市上柏田1-17-20	2ユニット 18名 通所 30名
居宅介護支援事業所たいせつの家	茨城県牛久市上柏田1-17-19	

〔別 紙〕

様式 1

居宅介護支援事業所セントラル大田	東京都大田区大森西 4 丁目 3 番 5 号	
セントラル通所リハビリ	茨城県牛久市柏田町 1 5 8 9 - 3	
サービス付高齢者向け住宅メディカルホームセントラル南馬込	東京都大田区南馬込 3 - 2 5 - 5	定員 37 名
有料老人ホーム柏田ヒルズ	茨城県牛久市上柏田 4 - 5 3 - 1 0	入所定員 12 名
サービス付高齢者向け住宅 柏田ヒルズ	同上	定員 3 名
ゆうあい訪問看護ステーション	茨城県牛久市上柏田町 4 - 5 8 - 1	
居宅介護支援事業所 ケアネットセントラル	茨城県牛久市柏田町 1 5 8 9 - 3	
短期入所生活介護事業所 ショートステイとまと	茨城県牛久市上柏田 1 - 1 7 - 1 9	定員 40 名
都市型軽費老人ホーム セントラル大森西	東京都大田区大森西 4 - 3 - 5	定員 20 名
訪問看護ステーション セントラル大森西	同上	
都市型軽費老人ホーム セントラル世田谷桜	東京都世田谷区桜 3 - 2 9 - 8	定員 20 名
健診センター	茨城県牛久市上柏田 4 - 5 8 - 1	
訪問診療	同上	
つわ通所介護事業所	茨城県土浦市西並木町 3 6 9 0 番地	定員 15 名

注) 地方公共団体から委託を受けて管理する施設については、その旨を施設の名称の下に【 】書で記載すること。

(3) 収益業務（社会医療法人又は特別医療法人が行うことができる業務）

種 類	実 施 場 所	備 考
なし		

(4) 当該会計年度内に社員総会又は評議員会で議決又は同意した事項

令和 3 年 5 月 1 日 理事及び監事の改選の件
 令和 3 年 6 月 26 日 2020 年度決算の承認
 令和 3 年 7 月 2 日 令和 3 年度 7 月支払の賞与借入資金の件

〔別 紙〕

様式 1

令和 3 年 10 月 2 日	介護老人保健施設セントラル大田 住所変更の件 居宅介護支援事業所及び訪問看護ステーション廃止の件 定款変更の件
令和 3 年 10 月 20 日	土浦リハビリテーション病院 介護医療院の借入の件
令和 3 年 10 月 30 日	都和病院 住所変更及び名称変更及び管理者変更の件 介護医療品 解説及び管理者選任の件 介護医療院 名称の件 つわ通所介護事業所 廃止の件
令和 3 年 11 月 6 日	収益業務 追加の件
令和 3 年 12 月 3 日	令和 3 年 12 月支払の賞与借入資金の件
令和 4 年 3 月 19 日	2022 年度予算の承認 借入限度額の承認

- (5) 当該会計年度内に発行した医療機関債
なし
- (6) 当該会計年度内に購入した医療機関債
なし
- (7) 当該会計年度内に開設（許可を含む）した主要な施設
土浦リハビリテーション病院 介護医療院
- (8) 当該会計年度内に他の法律、通知等において指定された内容
なし
- (9) そ の 他
なし

様式第三号

法人名 社会医療法人 若竹会

※医療法人整理番号

所在地 茨城県牛久市柏田町1589-3

財 産 目 録
(令和4年3月31日現在)

1. 資 産 額	15,070,702 千円
2. 負 債 額	10,441,640 千円
3. 純 資 産 額	4,629,062 千円

(内 訳) (単位：千円)

区 分	金 額
A 流 動 資 産	6,411,196
B 固 定 資 産	8,659,506
C 資 産 合 計 (A+B)	15,070,702
D 負 債 合 計	10,441,640
E 純 資 産 (C-D)	4,629,062

(注) 財産目録の価額は、貸借対照表の価額と一致すること。

土地及び建物について、該当する欄の□を塗りつぶすこと。

土 地 (□ 法人所有 □ 賃借 ■ 部分的に法人所有(部分的に賃借))

建 物 (■ 法人所有 □ 賃借 □ 部分的に法人所有(部分的に賃借))

様式第一号

法人名 社会医療法人 若竹会

※医療法人整理番号

所在地 茨城県牛久市柏田町1589-3

貸 借 対 照 表
(令和4年3月31日現在)

(単位：千円)

資 産 の 部		負 債 の 部	
科 目	金 額	科 目	金 額
I 流動資産	6,411,196	I 流動負債	4,595,144
現金及び預金	3,924,370	買掛金	599,489
事業未収金	2,391,544	短期借入金	2,798,326
たな卸資産	81,257	医療機関債	11,560
その他の流動資産	14,025	未払金	514,715
II 固定資産	8,659,506	未払費用	136,042
1 有形固定資産	7,697,119	未払法人税等	302
建物	4,938,434	未払消費税等	15,340
構築物	126,054	前受金	390
医療用器械備品	305,363	預り金	55,683
その他の器械備品	107,656	入院保証金	19,150
建設仮勘定	668,352	賞与引当金	444,146
土地	1,530,389	II 固定負債	5,846,496
その他の有形固定資産	20,871	医療機関債	508,440
2 無形固定資産	645,877	長期借入金	4,272,831
借地権	613,770	預り敷金	12,227
ソフトウェア	28,206	退職給付引当金	1,004,464
その他の無形固定資産	3,902	役員退職慰労引当金	48,533
3 その他の資産	316,510	負債合計	10,441,640
長期貸付金	111,553	純資産の部	
長期前払費用	147,179	科 目	金 額
差入保証金	57,132	I 積立金	
その他の固定資産	645	設立等積立金	1,588,752
		繰越利益積立金	3,040,310
資産合計	15,070,702	純資産合計	4,629,062
		負債・純資産合計	15,070,702

(注) 1. 表中の科目について、不要な科目は削除しても差し支えないこと。また、別に表示することが適当であると認められるものについては、当該資産、負債及び純資産を示す名称を付した科目をもって、別に掲記することを妨げないこと。

2. 社会医療法人、特別医療法人及び特定医療法人については、純資産の部の基金の科目を削除すること。

様式第二号

法人名 社会医療法人 若竹会

※医療法人整理番号

所在地 茨城県牛久市柏田町 1 5 8 9 - 3

損 益 計 算 書
(自 令和3年4月1日 至 令和4年3月31日)

(単位：千円)

科 目	金 額	
I 事業損益		
A 本来業務事業損益		
1 事業収益		14,187,775
2 事業費用		12,432,570
本来業務事業利益		1,755,206
B 附帯業務事業損益		
1 事業収益		939,079
2 事業費用		1,222,569
附帯業務事業損失		283,490
C 収益業務事業損益		
1 事業収益		
2 事業費用		
収益業務事業利益		
事業利益		1,471,716
II 事業外収益		
受取利息	62	
その他の事業外収益	161,017	161,078
III 事業外費用		
支払利息	81,433	
その他の事業外費用	266	81,699
経常利益		1,551,094
IV 特別利益		
V 特別損失		
その他の特別損失	383	383
税引前当期純利益		1,550,712
法人税・住民税及び事業税	302	
法人税等調整額		302
当期純利益		1,550,410

(注) 1. 利益がマイナスとなる場合には、「利益」を「損失」と表示すること。

2. 表中の科目について、不要な科目は削除しても差し支えないこと。また、別に表示することが適当であると認められるものについては、当該事業損益、事業外収益、事業外費用、特別利益及び特別損失を示す名称を付した科目をもって、別に掲記することを妨げないこと。

様式 5

法人名 社会医療法人 若竹会

所在地 茨城県牛久市柏田町1589-3

医療法人番号

関係事業者との取引の状況に関する報告書

(1) 法人である関係事業者

種類	名称	所在地	資歴 総額 (千円)	事業内容	関係事業者 との関係	取引の内容	取引 金額 (千円)	科目	期末 残高 (千円)

(取引条件及び取引条件の決定方針等)

(2) 個人である関係事業者

種類	氏名	職業	関係事業者 との関係	取引の内容	取引 金額 (千円)	科目	期末 残高 (千円)

(取引条件及び取引条件の決定方針等)

- (注) 1 種類は法第51条第1項に定める関係事業者のうち該当する関係を記載する。近親者である場合には統柄を記載する。
2 該当する取引がない場合には、「種類」欄に該当なしと記載する。(様式の提出は必要)

監 事 監 査 報 告 書

社会医療法人 若竹会
理事長 竹島 徹 殿

私たちは、社会医療法人 若竹会の令和3会計年度(令和3年4月1日から令和4年3月31日まで)の業務及び財産の状況等について監査を行いました。その結果につき、以下のとおり報告いたします。

監査の方法の概要

私たちは、理事会その他重要な会議に出席するほか、理事等からその職務の執行状況を聴取し、重要な決裁書類等を閲覧し、本部及び主要な施設において業務及び財産の状況を調査し、事業報告を求めました。また、事業報告書並びに会計帳簿等の調査を行い、計算書類、すなわち財産目録、貸借対照表及び損益計算書の監査を実施しました。

記

監査結果

- (1) 事業報告書は、法令及び定款に従い、法人の状況を正しく示しているものと認めます。
- (2) 会計帳簿は、記載すべき事項を正しく記載し、上記の計算書類の記載と合致しているものと認めます。
- (3) 計算書類は、法令及び定款に従い、損益及び財産の状況を正しく示しているものと認めます。
- (4) 理事の職務執行に関する不正の行為又は法令若しくは定款に違反する重大な事実はありません。

令和4年6月16日

社会医療法人若竹会

監事

平野 茂

監事

空本 光弘

独立監査人の監査報告書

令和4年6月14日

社会医療法人 若 竹 会
理 事 会 御 中

監査法人 [REDACTED] 事 務 所

代表社員
業務執行社員 公認会計士 [REDACTED]

監査意見

当監査法人は、医療法第51条第5項の規定に基づき、社会医療法人若竹会の令和3年4月1日から令和4年3月31日までの令和3会計年度の貸借対照表、損益計算書、重要な会計方針及びその他の注記並びに財産目録（以下「計算書類」という。）について監査を行った。

当監査法人は、上記の計算書類が、全ての重要な点において厚生労働省令第95号（平成28年4月20日）において定められた医療法人会計基準及びこれに関連する医政局通知等に準拠して作成されているものと認める。

監査意見の根拠

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準における当監査法人の責任は、「計算書類の監査における監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定に従って、法人から独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

その他の記載内容

その他の記載内容は、事業報告書、関係事業者との取引の状況に関する報告書、純資産変動計算書及び附属明細表である。理事者の責任は、その他の記載内容を作成し開示することにある。また、監事の責任は、その他の記載内容の報告プロセスの整備及び運用における理事の職務の執行を監視することにある。

当監査法人の計算書類に対する監査意見の対象にはその他の記載内容は含まれておらず、当監査法人はその他の記載内容に対して意見を表明するものではない。

計算書類の監査における当監査法人の責任は、その他の記載内容を通読し、通読の過程において、その他の記載内容と計算書類又は当監査法人が監査の過程で得た知識との間に重要な相違があるかどうかを検討すること、また、そのような重要な相違以外にその他の記載内容に重要な誤りの兆候があるかどうか注意を払うことにある。

当監査法人は、実施した作業に基づき、その他の記載内容に重要な誤りがあると判断した場合には、その事実を報告することが求められている。

その他の記載内容に関して、当監査法人が報告すべき事項はない。

計算書類に対する理事者及び監事の責任

理事者の責任は、厚生労働省令第95号（平成28年4月20日）において定められた医療法人会計基準及びこれに関連する医政局通知等に準拠して計算書類を作成することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない計算書類を作成するために理事者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

計算書類を作成するに当たり、理事者は、継続事業の前提に基づき計算書類を作成することが適切であるかどうかを評価し、厚生労働省令第95号（平成28年4月20日）において定められた医療法人会計基準及びこれに関連する医政局通知等に基づいて継続事業に関する事項を開示する必要がある場合には当該事項を開示する責任がある。

監事の責任は、財務報告プロセスの整備及び運用における理事の職務の執行を監視することにある。

計算書類の監査における監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した監査に基づいて、全体としての計算書類に不正又は誤謬による重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得て、監査報告書において独立の立場から計算書類に対する意見を表明することにある。虚偽表示は、不正又は誤謬により発生する可能性があり、個別に又は集計すると、計算書類の利用者の意思決定に影響を与えると合理的に見込まれる場合に、重要性があると判断される。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に従って、監査の過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

- ・ 不正又は誤謬による重要な虚偽表示リスクを識別し、評価する。また、重要な虚偽表示リスクに対応した監査手続を立案し、実施する。監査手続の選択及び適用は監査人の判断による。さらに、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手する。
- ・ 計算書類の監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、監査人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、監査に関連する内部統制を検討する。
- ・ 理事者が採用した会計方針及びその適用方法の適切性、並びに理事者によって行われた会計上の見積りの合理性及び関連する注記事項の妥当性を評価する。
- ・ 理事者が継続事業を前提として計算書類を作成することが適切であるかどうか、また、入手した監査証拠に基づき、継続事業の前提に重要な疑義を生じさせるような事象又は状況に関して重要な不確実性が認められるかどうか結論付ける。継続事業の前提に関する重要な不確実性が認められる場合は、監査報告書において計算書類の注記事項に注意を喚起すること、又は重要な不確実性に関する計算書類の注記事項が適切でない場合は、計算書類に対して除

外事項付意見を表明することが求められている。監査人の結論は、監査報告書日までに入手した監査証拠に基づいているが、将来の事象や状況により、法人は継続事業として存続できなくなる可能性がある。

- ・ 計算書類の表示及び注記事項が厚生労働省令第 95 号（平成 28 年 4 月 20 日）において定められた医療法人会計基準及びこれに関連する医政局通知等に準拠しているかどうかを評価する。

監査人は、監事に対して、計画した監査の範囲とその実施時期、監査の実施過程で識別した内部統制の重要な不備を含む監査上の重要な発見事項、及び監査の基準で求められているその他の事項について報告を行う。

利害関係

法人と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上